

「私たちが目指したい共生社会の姿と
その実現に向けた取り組みについて」

マセソン美季



マセソン美季

- 国際パラリンピック委員会理事
- 国際オリンピック委員会教育委員
- 長野1998パラリンピック
アイススレッジスピードレース
金メダリスト
- I'mPOSSIBLE日本版事務局
プロジェクトリーダー
- カナダ在住、二児の母



第1回プロモーション会議のふりかえり

- ◆多様なメンバーが、自由に意見を述べられる場
- ◆多くの人に歓迎され、支持される為に必要なキーワード
 - ①共生社会の実現
 - ②情報公開と丁寧な対話
 - ③自然との共存、共生

本日で説明させていただく内容

- ①雪の地域に暮らす 車椅子ユーザーの経験を通して
札幌に期待する街づくり
- ②共生社会を構築に向け、今すぐ活用できる無償教材
IPC公認『I'mPOSSIBLE』日本版のご紹介

①雪の地域に暮らす 車椅子ユーザーの経験を通して
札幌に期待する街づくりとは

雪国での生活に対する印象

雪や氷は『厄介』

- 除雪・排雪によるストレス増
(時間・体力・お金)
- 公共交通機関の利用が難しい
- 行動が制限される
- 家族や友人への依存が高まる
- 外出の機会が減る



冬が楽しみ

- スムーズな除雪
- 雪がもたらすコミュニケーションの増加
- 冬限定のバスサービス
- ウィンタースポーツに参画できる豊富な機会
- 極寒地の特徴を満喫



街づくりへの期待

環境・システム、プロセスの「当たり前」の見直し

- ① 雪がある生活に誇り を持てる街づくり
 - ・ 除雪ボランティアネットワークの構築
 - ・ スポーツや雪遊びの機会の創出
- ② 雪や氷と共存 できる仕組みづくり
 - ・ モビリティやアクセシビリティの向上
 - ・ 無雪空間の確保
 - ・ 環境と経済の好循環（雪冷房など）

②共生社会を構築に向け、今すぐ活用できる無償教材
IPC公認『I'mPOSSIBLE』日本版のご紹介

IPC公認教材 『I'mPOSSIBLE』 日本版



教材の名前の由来と意味

IMPOSSIBLE (不可能)

I'mPOSSIBLE (私はできる！)



- 少しの工夫や発想の転換をすることで「出来ない」と思い込んでいたことも、「できる」に変えられる。
- 簡単に諦めず、「どうすればできるようになるか？」と考える習慣を身につけて欲しい。

『I'mPOSSIBLE』を活用したパラリンピック教育の目的

パラリンピックを題材に、共生社会の形成に役立つ工夫の仕方や考え方を学ぶこと



共生社会の形成を担う若い世代の育成

『I'mPOSSIBLE』を活用したパラリンピック教育の目的

自分たちが暮らす社会を、
自分たちの力で
より良い場所に変えていくために
自ら行動を起こせる若者を増やしていく

オンライン研修に参加した教員の声①

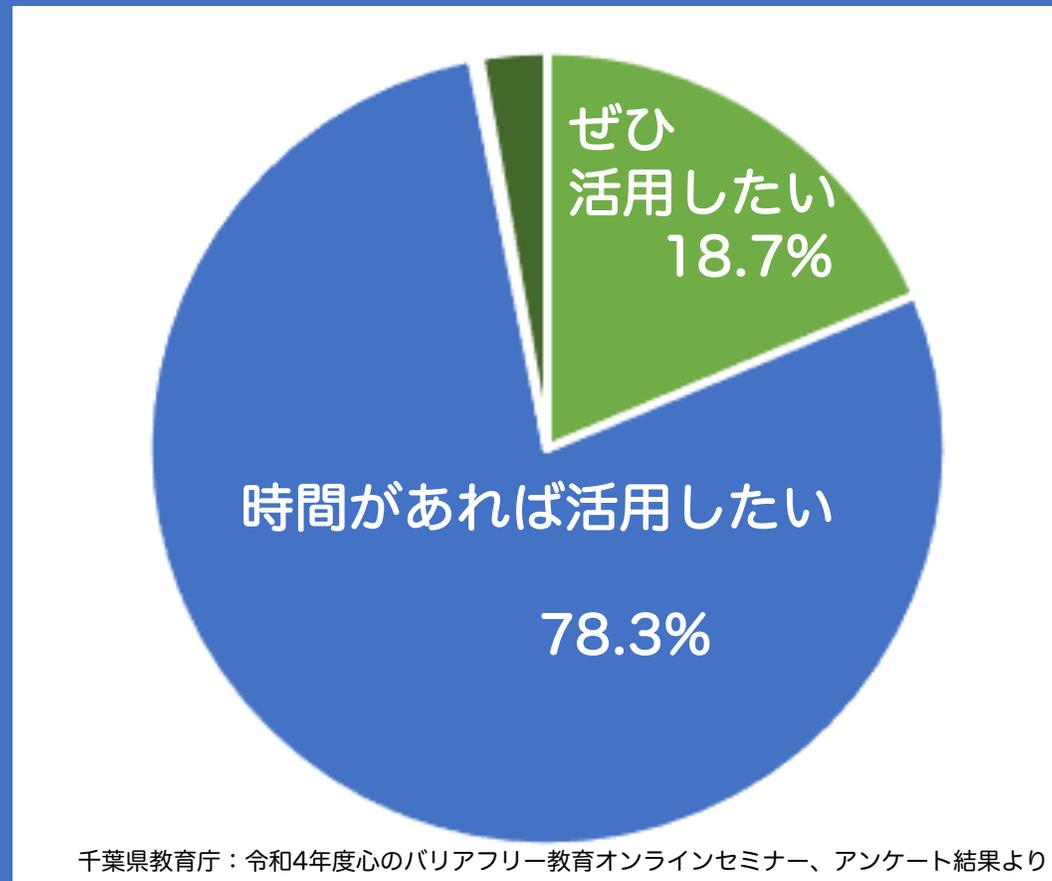
- 共生社会を実現するには、国民の意識を変えていくことが必要なので、全国の学校で『I'mPOSSIBLE』を活用したパラリンピック教育に取り組むことができればいいと思う。
- 『I'mPOSSIBLE』は、インクルーシブ教育の思想を具現化できるように非常に良く練られているものであることが印象に残った。
- 子どもたちの将来に必ず必要になる教育だと感じた。教員として共生社会、公平などの考えについて研修する必要があると思う。

オンライン研修に参加した教員の声②

- 様々な心身の特性や考え方を持つ人々が、相互に理解を深めたり、支えあったりすることを、パラスポーツを通して学べることはとても良いことだと思った。すべての児童が互いの人権を大切にし、支え合う共生社会を学校でも実現できるようにしていきたい。
- オリパラを単なるイベントとして終わらせることなく、心のバリアフリー教育の充実につなげることが重要だと再認識することができた。

オンライン研修に参加した教員の声④

Q:今後の活用について



教材を活用した教員の声

- この教材を取り扱うことで、「自分も障害のある人に関わりたい」とか、「自分の家や地域（のバリアフリー）ってどうなんだろう？」など、そういうところに視点がいく子が増えた。
- 子どもたちの反応で、自分自身を変えてもらった。
- 共生社会は待っていてもおきない。（特別支援学校の教員として）生徒と一緒に自分達が地域に乗り込んで行く場を作ったり工夫したりした。その結果、生徒たちが自信をつけ、変化していった。

パラスポーツを通して実現できる共生社会とは？

- 多様なニーズがある人達が、自分の居場所を見つけ、様々なことに挑戦できる社会
- 誰もがスポーツを楽しむ選択肢がある社会
- 『少しの工夫や発想の転換をすることで「出来ない」と思い込んでいたことも、「できる」に変えられる』、というパラスポーツの考え方を社会の中にある問題解決に応用し、常に進化し続ける社会
- 多様な人達が、相互に理解しあい、支え合える社会

まとめ

①共生社会の実現

②情報公開と丁寧な対話

③自然との共存、共生

- 共生社会の実現に向け、学校と連携したパラリンピック教育の促進
- 情報公開のアクセシビリティ担保
- 札幌市民、北海道民が「雪がある生活」に誇りを持ち、冬が楽しみになる街づくりを進めることで、地域住民が冬場の暮らしが改善されたと実感できる取組み